

たったひとつの大切な命

宮古島市立下地中学校2年 洲鎌^{せんり} 千綾さん

「死」それは、誰にでもいつか訪れるもの。もしもある日突然、自分や家族、友人、大切な人の命が失われたら、私は何を思い、どんな行動をするのだろうか。

ニュースや新聞で、毎日のように目にする事件や事故。私達は遠い場所で起きていることのように感じ、聞き流してはいないだろうか。心を痛めることがあっても、すぐに忘れ、尊い命が失われたという現実から、目をそらしてはいないだろうか。私は、何気なく過ごしている日常が、ただ生きていることが、本当に幸せだと感謝しなければならぬと、最近考えるようになった。

昨年12月、我が家に新しい命が誕生した。私と13歳離れた妹だ。私達家族は、今までにないくらいの幸せを感じた。初めて抱っこした時の温かな重み。小さいけれど、力強く、確かに生きている命の温かさを前に、私は感動で胸がいっぱいになった。小さなくしゃみをみんなで心配し、大事に大事に抱っこした。ミルクをたくさん飲むだけで、家族みんな喜んで。私も幼い頃、こんなふう大切にされ、愛情を注いで育ててもらったのだと気が付いた。そして、事故や事件で犠牲になった人達も、生まれたばかりの幼い子供も、何十年も生きているお年寄りもみんな同じ尊い命だと思えるようになった。だから、どんな理由であれ、人の命を奪ってはいけない。自ら命を絶ってはいけないのだ。命は、自分だけのものではない。私たちは、家族だけではなく、今まで自分と出会い、支えてくれたすべての人から温もりという名の命を育ててもらってきたのだ。1人1人が、その温もりを、相手に伝えることが命を大切にすることだ。

一度死んでしまうと、ゲームのように何度もやり直すことはできない。しかし、どんな形でも、いつか命には終わりが来る。朝、元気に家を出た家族と、もう会えなくなるかも知れない。昨日ハイタッチした友達が、今日いないかもしれない。今隣にいるあなたとの会話が、最後になるかもしれない。私たちは、「死ね」という相手を傷つける言葉をふざけて言うこともある。そのような言葉ではなく、「ありがとう」の感謝の言葉を伝えたい。困っている人がいたら、優しく手をさしのべ、温もりを与えられる人になりたいと心から思う。相手の命を大事に思うからこそ、大事に人と向き合いたい。

私の指をぎゅっと握る、妹の小さな手。この手の温かさは命の温かさ。私たちの周りには、温かな命があふれている。1人1つの大切な命。私は当たり前の日々を一生に一度の一日だと思って、しっかりと生きていきたい。そして、家族や友達、全ての人の命を大切にできる人になりたい。この命を、輝かせるために。

生きること

沖縄県立宜野座高等学校3年 佐竹^{あやね} 彩音さん

私は、中学生の時に従弟を1人亡くした。赤ちゃんの時、体調が良くならず、病院に行くと癌だと宣告されたそうだ。それから治療に専念し、小さな体で手術を何回も頑張っていた。小学校に入るとランドセルを自慢そうに見せてきたのを今でも覚えている。病院通いの毎日で大好きだった学校も、数え切れるくらいしか行くことができなかった。食欲や体力が激減し、どんどん細くなっていく彼をみるのが辛かった私は、あまり話すことができなかったが、亡くなる1日前、お見舞いに行った私たちに頑張って手を振ってくれた。そして、彼の人生は7年という短さで幕を閉じた。彼は、生きようと一生懸命に息を吸っていた。その呼吸が止まった時、初めて命がなくなる瞬間というのを目の当たりにした。誰も望んでいないのに、命は消えてしまう。命は重いけど、強くない。だから私はもっと命を大切にしようと思った。命を守ろうと思った。そして、減っていく命の数を少しでも減らしたいと思う。

しかし最近、悲惨なニュースをよく耳にする。

例えば、「虐待」だ。それも、親が子どもに向けた虐待が多い。大きな手で小さな命を奪ってしまうのだ。小さな子どもは逃げることができないし、助けを呼ぶ方法がまだ分からないから一番卑怯だと思う。また妊娠や育児の辛さから命を奪う選択するのは間違っていると私は思う。子どもも、苦しんでいる親も救えるような世の中になってほしい。

次に、「殺人」がある。どうして人は自らの手で命を奪おうとするのだろうか。喧嘩で感情に流され刃物をむけてしまう者、自殺にまで追い込むようないじめをする者、嫉妬や欲望から犯罪に手を染める者など、命の大切さを分かっていない人が多いと思う。

殺人がある環境を作った私たち人間は、その環境をなくすこともできると思う。命の大切さを分かる人がもっと増えればと思う。

命は、簡単になくなってしまふからこそもっと大切にしてほしい。「その人の命の長さや結末は、あらかじめ決まっている」と言う人もいるけれど、生きることが可能な限り生きてほしいと思う。そしてそれを殺人や自殺などで阻止しないでほしい。私の従弟のように生きてくても生きることが難しい人がたくさんいる。やりたいことがあっても、できずに終わってしまう人もたくさんいるということをお忘れしないでほしい。生きている時には、大きな病にかかったり、生きる希望をなくしたりするときもあると思う。だけど私は、一生懸命生きようと頑張った従弟のように、困難や苦しみがあっても力強く生きようと思う。そして、生きる希望をなくした人には希望を与え、犯罪に手を染めようとする人達を少しでも減らしていきたい。生きるとは、少し難しいかもしれないけれど、命の制限時間いっぱい、後悔のないように前を向いて生きていきたい。

反響等

- 性犯罪被害者の生の声を聞いて、被害者の悲痛な立場を考えさせられた。
- 早川さんの勇気と、強い意志での講演に感動しました。被害者の気持ちを考える重要性を思いました。今後に活かしていきます。
- 当事者しか感じる事の出来ない部分についてお話いただき感謝です。
- もっと多くの県民に聞いて欲しいと思った。学校等でも講演して欲しい。
- 中・高校生の作文も素晴らしかった。今日学んだことを家族、職場、友人達へも伝えたい。